



全国高校生体験活動顕彰制度

地域探究プログラム

令和6年度報告書



全国高校生体験活動顕彰制度委員会 委員長
日本赤十字社 常任理事
板東 久美子

ご挨拶

本事業も本格実施から5年目を迎えることができました。年々本事業への参加者も増加しており、高校生の探究が身近で広がりをもったものになってきていると感じております。

実践活動では、地域に寄り添い、高校生ならではの発想と創造力を生かした素晴らしい取り組みが実施され、高校生一人一人の地域に対する熱い思いを感じることができました。

また、本事業では、高校生同士の交流を大切にしております。地方ステージや全国ステージで出会った仲間達と情報交換をし、互いに高め合っている姿がみられました。今年度の全国ステージでは出場者だけでなく、12名の過年度出場者が「先輩サポーター」として自身が出場した当時の取り組みや現在の取り組みなどを基に、企画や運営にも携わっていただきました。

本事業へご協力いただきました関係各所の皆様に厚く御礼申し上げます。引き続き高校生の地域探究へのご支援よろしくお願い申し上げます。

令和6年度 実施状況

| | | | |
|-----------------|--------|-------------------|------|
| オリエンテーション合宿実施施設 | 24施設 | 地域探究アワード地方ステージ出場者 | 173名 |
| オリエンテーション合宿参加者数 | 1,160名 | 地域探究アワード全国ステージ出場者 | 29名 |
| 実践活動報告書提出者数 | 270名 | | |

オリエンテーション合宿の事例紹介

学校・団体参加型

主 催：国立淡路青少年交流の家
期 間：令和7年2月4日(火)・5日(水)
連携先：兵庫県立洲本実業高等学校

合宿の内容

学校での事前学習や冬休み等を利用して得た情報を基に、「自ら発信する」という約束事を決め、2日間のオリエンテーション合宿が開催されました。鳴門教育大学の先生から「地域探究」とは何かといった課題設定の基礎について学び、その後はグループ毎に各フィールドワーク先を訪問し、訪問先の魅力や課題を「ブレインストーミング」や「KJ法」によって整理してまとめました。まとめた内容を「KP法」を用いてグループ発表や質疑応答を行い、発表後は新たな課題を設定し、再び資料を作成し、地域の魅力や課題を自分事として捉え、さらに追究することができました。

ここがポイント!

「教室とは一味違った地域探究活動！」

フィールドワークでは洲本市内の5カ所(FC.AWJ、コモード56商店街、洲本レトロこみち、平岡農園、ホテルニューアワジ)を訪れ、実際にそこで働く人との対話を通して、インターネットの情報からは学べない地域の魅力や課題を知ることができました。講義の中で「洲本ってどんなところ？」という発問があり、地元について考える良い機会になり、地元の知らなかったことを知ることができました。また「探究」の説明では座学だけではなく「フリスビー」を用いて説明するなど、教室とは一味違った講義となりました。



個別参加型

主 催：国立室戸青少年自然の家
期 間：令和6年8月22日(木)～24日(土) 2泊3日
連携先：室戸市地域おこし協力隊、むろと廃校水族館

合宿の内容

ユネスコ世界ジオパーク認定の地である室戸を舞台に「むろとをタタキおこそうプロジェクト」として室戸市地域おこし協力隊の方をファシリテーターに2泊3日で開催され、県内だけでなく関東圏からの参加者もいました。県外から室戸に移り住み、地域おこしのミッションに関わる取り組みなど、地域に根差して活動する方のリアルな目線でお話を聞くことができました。フィールドワークでは、室戸の文化を様々な角度から体験し、室戸の食材を使用した食事も振舞われ、五感を使って室戸を感じることができました。

ここがポイント!

「室戸の文化を体験し尽くした2泊3日！」

フィールドワークでは、国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定された吉良川の町並みを訪れ、町並みの歴史や文化を守る方々の思いを保存会会長から伺いました。また、廃校を活用した「むろと廃校水族館」では、水族館開館までの道のりや地元の伝統漁法である大敷網などについて館長から学び、飼育員体験では飼育員のお仕事に触れることができました。最終日には「第34回土佐室戸鯨舟競漕大会」へも出場し、伝統の「鯨舟」を実際に操船し、当時の捕鯨の難しさや文化について学びました。



地方ステージ

実践活動の報告と高校生同士の交流を行うため、全国8ブロックで開催されました。各ブロックで選出された個人及びグループが全国ステージへ進みます。



開会式(東北ブロック)



出場者交流会(関東・甲信越ブロック)



プレゼンテーション発表(中国ブロック)



プレゼンテーション発表(九州・沖縄ブロック)



評価委員講評(北海道ブロック)



閉会式(中部ブロック)



表彰式(近畿ブロック)



表彰式(四国ブロック)

全国ステージ

令和7年2月8日(土)～9日(日)に国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催されました。今年度は過年度出場者の「先輩サポーター」が企画・運営にも参画し、現在の取り組みも交えながら交流が行われました。

1日目



先輩サポーター企画打合せ



アイスブレイク



交流会①



交流会②

2日目



開会式



理事長挨拶



先輩サポーター激励



プレゼンテーション発表



評価委員講評



表彰式



集合写真

令和6年度先輩サポーター

| 氏名 | 出場年度 | 氏名 | 出場年度 | 氏名 | 出場年度 | 氏名 | 出場年度 |
|--------|-------|-------|---------|-------|-------|--------|-------|
| 三森 幹太 | 令和3年度 | 出口 若菜 | 令和4・5年度 | 豊田 彬人 | 令和5年度 | 三浦 優依 | 令和5年度 |
| 東 琴乃 | 令和3年度 | 堀金 康太 | 令和4年度 | 宮内 寛人 | 令和5年度 | 松井 理子 | 令和5年度 |
| 山下 みこと | 令和4年度 | 東 琉斗 | 令和4・5年度 | 後藤 祐貴 | 令和5年度 | 星野 そよ風 | 令和5年度 |

出場者紹介

受賞者の報告書や
当日の発表動画は
こちらから確認できます。



個人部門

関東・甲信越ブロック

江幡 崇(茨城県立水戸桜ノ牧高等学校)

障がい者が安心して楽しめる観光
～茨城県ひたちなか市へ高校生からの提言～

2023年に茨城県で観光客数が第1位になったひたちなか市で「障がい者の方が観光地を十分に楽しめているのか」と感じ、観光と障がい者に係る業種の方へのアンケートと報告会等を実施。

文部科学大臣賞



近畿ブロック

森下 颯樹(兵庫県立洲本実業高校)

竹林から未来へ:Kaguyaプロジェクト
～地域と若者が紡ぐ竹林再生の物語～

淡路島の竹林問題を解決するため、竹林整備や「パンパーたまごむしむし」の開発・販売、ワークショップを開催し、地域の方々や高校生と竹林問題の周知と解決策を探った。

国立青少年教育振興機構理事長賞



四国ブロック

大川 花蓮(千葉県立柏井高等学校)

佐倉市オレンジ化構想
～ちいきの「誇り」とは～

佐倉市の地域活性化のため、オランダとの歴史的なつながりに注目し、市の考えと現状を学び、多様な視点からの考えや思いをもとに「佐倉市オレンジ化構想」を完成させた。

金賞



東北ブロック

マムルト ミルザ サイモン バラン(福島県立光南高等学校)

日本人と外国人のコミュニケーションの障壁をなくそう
～言語と文化を超えて繋がる力～

白河市に住む外国人が直面する課題の分析や、国際交流イベントや英語勉強会の企画など、自分独自の視点から、多文化共生を目指し、国際交流会や英語勉強会、相談会を実施。

全国高校生体験活動顕彰制度委員会委員長賞



中部ブロック

竹本 ちえり(石川県立鶴来高等学校)

白山手取川ユネスコ世界ジオパークを若い人にも!

「白山手取川ユネスコ世界ジオパーク」の活性化等に取り組むため、独自に公共交通機関を使って白山麓のジオサイトを見学できるモデルコースのパンフレットを作成予定。

金賞



中国ブロック

谷口 芽衣(岡山県立瀬戸南高等学校)

学校内でできる体験型観光プラン
～一日で農業を体験でき、動物と触れ合える観光プラン～

実際の体験を通して、岡山の主要産業でもある農業や食文化を学んでもらうことを目的に、学校内でできる稲刈り体験やエックポブリづくりなど体験型観光プランを開発。

金賞



九州・沖縄ブロック

瀧本 沙羅(国立熊本高等専門学校八代キャンパス)

八代をもっともっと発信するために
～八代の農業や自然の魅力を私にしかできない方法で発信する～

八代に住んでいると「八代には何もない」という声をよく耳にするため、八代をより多くの人に知ってもらうためのイベントの開発や様々な媒体を利用して魅力発信を行った。

国立青少年教育振興機構特別賞



グループ部門

北海道ブロック

小蕎 心遥・村井 莉緒(北海道剣淵高等学校)

来てみてください! 剣淵町!
～キッチンカーと高校生が作成したパンフレットで観光客増加へ～

剣淵町内おすすめ飲食店を掲載した観光モデルコースのパンフレットを配布するため、「食」と「観光」を掛け合わせ「剣淵キッチンカーフェスティバル」を企画・運営。

金賞



東北ブロック

白岩 亜莉沙・鈴木 湊(福島県立光南高等学校)

モルック×健康=心躍る地域社会
～全世代がスポーツを通して楽しめる地域社会を実現するためには?～

地域の方々にニュースポーツに親しんでもらい、体を動かす楽しさを味わってもらうことを目標に「モルック」の体験を地域のイベントとコラボレーションして実施。

金賞



関東・甲信越ブロック

掛本 萌衣・柴田 結希・鈴木 颯士郎・勝又 朝日(静岡県立御殿場南高等学校)

御殿場未来教室でつながる新しい地域の輪
～若者ComeBack大作戦!～

御殿場市の現状と今後の発展について、地域や他校の方と意見交換を行い、大学生と産業フェアで子供たちが楽しめる企画・運営を行ったり、教え合いのできる自習室を開設。

金賞



中部ブロック

村上 翔空・高野 理華・角川 瑞葉(高山西高等学校)

飛驒の木とSDGs
～廃材に光を～

廃材を活用したデザイナーへのインタビューをきっかけに、飛驒の木の歴史についても調べ、地球にも優しく、飛驒の新たなブランド力になるであろうランプシェードを制作。

銀賞



近畿ブロック

本村 愛澄・石原 さくら(奈良県立添上高等学校)

ゴンちゃん、もっとみんなとあそびたいゴン!
～絵本『そむらゴンちゃん!』による獅子舞後継者不足への挑戦～

昨年度に作成した郷土芸能「曾爾の獅子舞」を題材にした絵本を加筆修正し、高校近隣の幼稚園や曾爾村を通じて保育所、小中学校、図書館等に配布したり読み聞かせを行った。

国立青少年教育振興機構特別賞



中国ブロック

柴田 咲・白石 葵(山口県立山口高等学校)

山口のインバウンドを増やすには?
～山口の外国人観光客を増やし、観光客の満足度を上げるには?～

山口県のインバウンドを増加させるため、湯田温泉の宿泊施設や外国人観光客にインタビューを行い、結果から今後行うべき取り組みについて市や旅館協同組合に提言を行った。

文部科学大臣賞



四国ブロック

枝川 隼飛・菊地 陽菜・久保 雅琴・河野 暁・水元 美桜(愛媛県立長浜高等学校)

とびだせ!!ざぶとん水族館!!
～駅から町へ!出発進行!～

フェルトで作成した「ざぶとん水族館」を街の店舗等に設置し、観光しながら探すイベント等を開催し、地域全体で「ざぶとん」をきっかけにつながりをつくることを目指した。

国立青少年教育振興機構理事長賞



九州・沖縄ブロック

迫 朝陽(樟南高等学校)・前畑 仁美(鹿児島高等学校)

link! マナビを通して見えた町
～見えた課題、離れた町、私たちにできること～

高校生から直接リアルな声を聞いたり、中学生のニーズに合わせた合同高校説明会の実施や参加者も主催者側も喜入を知り、地域を繋ぐことができる複合型イベント等を共催。

全国高校生体験活動顕彰制度委員会委員長賞



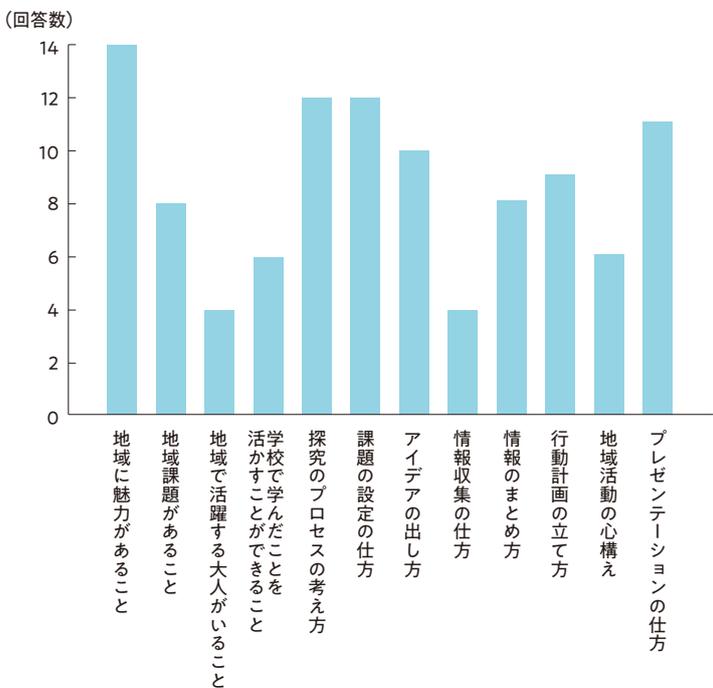
全国ステージ出場者アンケート

オリエンテーション合宿は楽しく学ぶことができましたか。



- 活動を通じて自然と仲良くなり、一緒に考え、学び、取り組む時間がとても楽しかったです。初めて訪れた地域で、その土地ならではの**問題や魅力**を知ることができたのも印象的でした。
- 初めて顔を合わせる参加者と共に地域を巡り、案を考える、**討論することはとても楽しかった**です。

オリエンテーション合宿で学習したと思う内容は何か。(複数回答可)



オリエンテーション合宿に参加して感じたことを教えてください。

- 色々な人と関わって知恵を絞ってアイデアを出し合えば、一人ではできないことも、無理だと思うことも、**だいたい解決できると分りました**。あきらめないことと感謝、積極的な連携、関係を広げることなどの大切さを感じました。
- 「周りの大人を頼れば手伝ってくれる」という言葉がとても印象的でした。その言葉を聞いて、**地域の大人の方々にもっと積極的に相談してみよう**と思い、自分からアポを取って話を聞く機会を増やしました。実際に動いてみると、想像以上に**多くの人が協力してくれ、地域のつながり**の大切さを実感しました。

実践活動を行って感じたことを教えてください。

- 今回の実践活動を通じて、「**理解が得られない環境でも、自ら発信し続ければ支えてくれる人がいる**」ということを学ぶことができました。
- 私達の活動を見てくれる**大人が沢山いること**や、高校生の小さな力でも、大きく関わることが出来たこと、これから先も**たった一つの私達の取り組みが受け継がれていくこと**で、**長期的に地域に影響を与えられる**と感じました。

全国ステージでの他の出場者や先輩サポーターとの交流は十分にできましたか？

- 夕食時には先輩サポーターの方と話す機会があり、**自分とは異なる経験や価値観を持つ人と交流**できたことがとても貴重でした。
- 自由時間の際にも、いろいろな方とお話しをする事ができ、大変有意義でした。**探究活動の課題設定や進め方**の話が大変参考になりました。

地方ステージや全国ステージに出場して感じたことを教えてください。

- 同世代でもこんな視点で物事を考えているんだと**新たな視点**を見ることができ、**自分自身の成長**にもつながったと思います。またプレゼンテーションという**自分の思いを全面に出す場**で自分自身の熱い思いを言葉にして発表できて本当に成長できたなと思います。
- 探究活動は**決まった答えがない**ので、ちいぶろ!に参加することでほかの高校生の活動や評価委員の方のご意見などを知り、知見を広げたり、**新たな可能性**に気付いたり、「**全国にこんなに頑張っている人がいるのか!**」と活動のモチベーションにつながり、**活動のモチベーション**につながり、非常に自身とプロジェクトの成長に役立っ体験ができたと思う。

事業全体を通して得たもの(進路を考えるうえで役にたったこと、学んだこと、新しく挑戦したいことなど)があれば教えてください。

- 私はこれまで「やりたいこと」を明確に持っているわけではありませんでした。活動を通して「**地域の魅力を発信し、人と人をつなぐこと**」に強く関心を持っていることに気づきました。この一年間の経験は、単なる活動にとどまらず、**私の考え方や価値観を大きく広げるもの**になりました。今後も学び続け、成長しながら新たな挑戦をしていきたいと思っています。
- 本当に**交流が新たな発見につながった**と考えています。また、高校生の力でも目標のために活動することで**地域活性化**をすることができると感じました。今後、**大学進学にあたって、地域共創に関する学問を学ぶのも良いかと考える**ようになりました。

先輩サポーターの声

- 去年は自分が出場者側だったことから**出場者へのフォロー**を精一杯できたかと思います。また先輩サポーターとしては初めてだったのでほかの先輩サポーターをお手本として活動ができ**縦の繋がり**を以前より強く実感できました。
- 会場にいる方たちの**雰囲気**が明るく、緊張感もありながら、**お互いの発表を楽しんでいる**ように感じました。**先輩サポーターがたくさん活躍**していて、**学生たちがより大会を盛り上げられている**と感じ、もっと頑張りたいと思いました。
- 観覧者の数がとても多く、**探究への注目度**が高まっているのを実感しました。**先輩サポーターが司会やタイムキーパーなどの運営に携わる点**がとても良いと思いました。私たち先輩サポーターも「**去年こんな発表してたよね?**」と1年越しに**同窓会みたいな雰囲気**になり、この良さは**ちいぶろ!ならではの**と感じています!

学校教員・保護者の声

- 粘り強く**学びに向かう姿勢**が身につきました。うまくいかないことがあっても、向き合うことができるようになりました。**他校との生徒との関わり**を持つことで、**多様な意見や価値観**を共有できていました。(学校教員)
- 動画で見て**すごいな**と思っていた先輩が**現実**に目の前にいて、言葉をかけてもらったり、アドバイスをもらったりして、とても**自信につながった**ようです。同年代のつながりというのに感銘しました。本人は**全国ステージで賞をとり**にきたというよりも、**参加をした方々と交流**するのが本音としては**楽し**みだったようです。**高校生同士のつながり**を行ってくださり感謝しています。(保護者)